

物語のつくり方

* 完成版では文字を減らして図やイラストを入れて読みやすくする予定（今は、マニュアルとして最低限機能するものを作っている段階）

はじめに

- 何の物語をつくるのか？
 - 「新しい衣服とのつきあい方」の物語をつくる
- どんな物語をつくるのか？
 - 物語を読んだ人が、「自分もこんな生活をしよう」と思う物語をつくりましょう

物語完成までの流れ

- ①物語の題材を考える（個人作業）
 - ①-1 プロファイルワークシートに書き込む
 - ①-2 「衣服との新しいつきあい方」についてアイデアを出す
- ②物語の題材を絞り込む（チーム作業）
 - ②-1 プロファイルワークシートをひとつに絞り込む
 - ②-2 アイデアをひとつに絞り込む
- ③物語の主人公の設定を決める（チーム作業）
- ④物語を構成するエピソードの作成（チーム作業or個人作業）
- ⑤エピソードをつなげ、ひとつの物語にする（チーム作業）

①物語の題材を考える

- チーム内で議論する材料を準備するために、まずは個々のメンバーで物語の題材を考えましょう
- ①－1 プロファイルワークシートに書き込む
 - 物語に登場する衣服を決めるため、プロファイルワークシートを完成させます
 - なるべく自分の持っている服（もしくは持っていた服）を参考にして書き込んでください

①物語の題材を考える

• ①-2 「衣服との新しいつきあい方」についてアイデアを出す

• 次の2点に注意してください

- 「自分もこんな生活をしよう」という言葉をできるだけ広く捉えてください
 - 「楽しそう」だから「自分もこんな生活をしよう」と思うこともあれば、「その方が社会や自然環境にとって良い」から「自分もこんな生活をしよう」と思うこともあります。
- (思いつかない。できるだけ、ぶっ飛んだことを考えてほしいということなんだけど。物語としても魅力的なものでなくてはならない、ということかな?) → 「自分もこんな生活をしよう」だけだと、そこまでぶっ飛んでくれないかも。

①物語の題材を考える

- アイデアを考えるときは次のような事例も参考にしてみてください。
- スーツで農作業（齋藤聖人）
- 究極の理想は、夏は布一枚ですごす（稲垣えみ子）
- あえて目立つようにお直しする（横尾香央留）
 - 《彼女の仕事はお直し。やぶけてしまったブラウス、虫に喰われたカーディガン、その時、その人がきたからこそできたキズに、意味をもたせるようにお直しをします。》横尾香央留（2012）『[お直しか]の書籍紹介文

①物語の題材を考える

- アイデアと、プロファイルワークシートに書いた衣服がうまくかみ合わないときは、衣服の方を書き換えても構いません
 - 衣服の設定にある程度フィクションの要素が入っても構いません
 - どうしてもアイデアとかみ合わないときは、自分の身近な人の衣服を参考にしても構いません
 - 衣服の設定を決めるにあたり、身近でない人の衣服を参考にしたり、完全にフィクションにしてしまったりするのはなるべく避けてください

②物語の題材を絞り込む

- 以下の2つの作業は、チームで議論しながら、同時並行で進めてください
 - ②-1 プロファイルワークシートをひとつに絞り込む
 - ②-2 アイデアをひとつに絞り込む
- 各メンバーの準備したアイデアを組み合わせても構いません
 - プロフィールワークシートについてはなるべく組み合わせずに、各メンバーが準備してきたものから1つ絞り込んでください
- どんな物語がつかれるか、物語は評価者からの評価が得られるか、よく考えながら題材を絞り込んでください

③物語の主人公の設定を決める

- 物語の主人公の基本設定を、**キャラクターシート**に書き込んでください
- 基本的に、その衣服を着ていた人をモデルにしてください。設定にはある程度フィクションが入り込んでも構いません（年齢や性別を変える等）
- 主人公は物語内で、プロフィールワークシートに記載された衣服について「衣服との新しいつきあい方」を実践する人物です

④物語を構成するエピソードの作成

- エピソードをスライドにまとめていきます。
- エピソードをつくる作業は、「衣服との新しいつきあい方」を実践するにあたり、「うまく行きそうな状況」「うまく行かなそうな状況」を考えることを軸にして進めていきます
- ステップ1. うまく行きそうな状況を考える（起・承を考える）
- ステップ2. うまく行かなそうな状況を考える（転を考える）
- ステップ3. うまく行かなそうな状況を解決する展開を考える（結を考える）

④物語を構成するエピソードの作成

- ステップ1. うまく行きそうな状況を考える（起・承を考える）
- まずは、「新しい衣服とのつきあい方」がうまく行きそうな状況を考えましょう。そして、そうした状況でその「つきあい方」を実践したら、どんなことが起こるのかを想像して、箇条書きにしましょう（周りからどんな反応が来るか？ 既存の生活と比べてどこがどんな風に良くなっているのか？ などを考えてみましょう）。
- もともとのアイデアをただ説明するのではなく、具体的な状況の中にアイデアを置いて、元々のアイデアを展開することを意識してください。

④物語を構成するエピソードの作成

- ステップ2. うまく行かなそうな状況を考える（転を考える）
- 次に、「新しい衣服とのつきあい方」がうまくいかなそうな状況を考えましょう。起承転結の「転」に当たるところです。

④物語を構成するエピソードの作成

- ステップ3. うまく行かなそうな状況を解決する展開を考える（結を考える）
- 「うまく行かなそうな状況」を乗り越える展開を考えてください。
- 「うまく行かなそうな状況」があまりに厳しいものだと、乗り越えるための展開を考えるのは難しくなるかもしれません。その場合は、「うまく行かなそうな状況」をもう少し緩いものにするなどの調整が必要です。
- ただし、あまりに緩くしすぎてしまうと物語としての説得力が弱くなる可能性があるので気をつけてください。

⑤エピソードをつなげ、ひとつの物語にする

- まずは、各エピソードのスライドを「起承・転・結」の順に結合しましょう
- 次に、全体の整合性をチェックして、おかしいところを修正していきます
 - エピソード間で、キャラクターの言動に矛盾はないか？
 - エピソードの中の「衣服との新しいつきあい方」に関するアイデアが、最初に準備したアイデアから乖離していないか？
- 修正が済んだら完成です